松阪市議会

議長 中島　清晴様

平成 30 年 11 月 15 日

市民クラブ

楠谷さゆり

研修報告書

今般、下記のとおり研修を実施いたしましたので、その内容等を報告します。

1.　研修の日程　平成 30 年 11 月 9 日（木）

2.　参加者　楠谷さゆり

3.　主催、講師　一般社団法人　会議ファシリテーター普及協会

代表理事　釘山健一

講師　宮坂里司

4.　場所　松阪市ワークセンター

5.　　目的　　議会報告会をもっと活発なものにするために、対話型議会報告会開催のノウハウを学ぶ

記

1.　対話型議会報告会とするための工夫

(1) 楽しいチラシを作成する

(2) 「議会報告会」ではなく、楽しい愛称をつける

(3) 初めに、地域の人の特技のある人たちの出し物をやる

(4) 会場の飾り付け

お菓子、テーブルクロス、生の植物（花など)、実物の資料

(5) グループになるよう机を並べて置く

議員と市民が対峙しないで混ざり合う

(6) 説明の後には対話の時間を取る

(7) 対話の時のテーマが大切

子育て、福祉のテーマだと女性を集めやすい

(8) アイスブレイク

テーマに関する４択問題を作って置く

(9) グループ内の自己紹介

最近あった「おめでたいこと」などを各自が紹介する

(10)キッズスペースを作る

親子で来てください、という議会報告会を目指す

2.　テーマの付け方のコツ

課題解決するテーマが一般的であるが、これでは面白みに欠ける。夢実現型のテーマで夢を語らせるのが理想的。例えば、「良い公園にするためのアイディア」など。

議会報告会の目的は、報告をする場ではなく、市民に議会を身近に感じてもらう場である。対話の呼びかけ方も、「忌憚のないご意見をお願いします」ではなく、「いろいろ語り合っていきたいと思います」と変える。

3.　付箋の使い方が大切

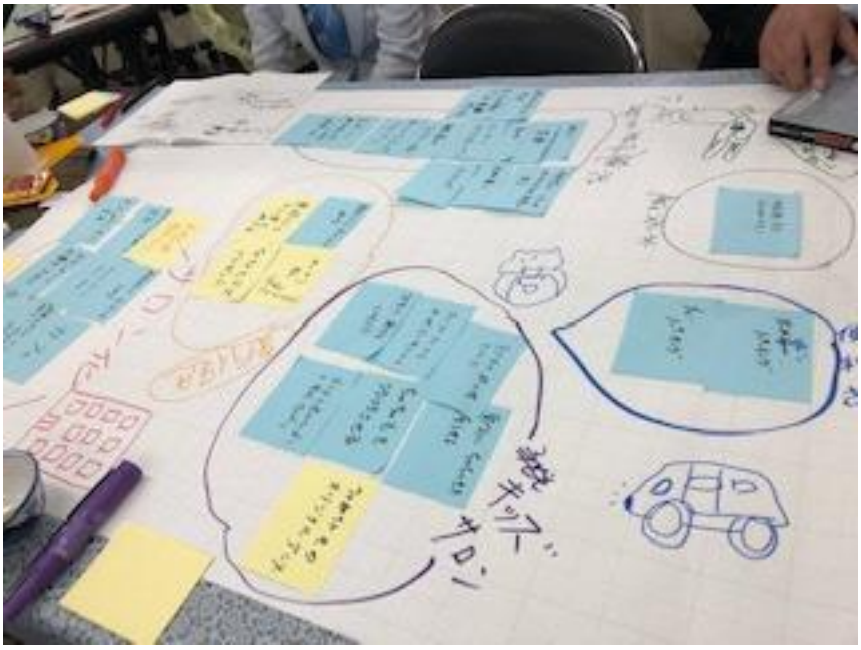
付箋には「自分の意見を書いてください」ではなく、「どんなことでもいいから、なるべくたくさん書いてください」と呼びかける。量は質を担保するものである。その中で絞り込んで行けば良いのである。

次に、全てを一度に出させない。一人が一枚ずつ出す。そのインパクトが楽しいものである。また、一枚を見て他の人が何かひらめいたら、色の異なる付箋に書いて出す。色の違う付箋がたくさん出るのは、人の意見をよく聴いている証拠であるし、尊重している証拠となるので、色の異なる付箋がたくさん出ることが会議の醍醐味とも言える。

４．　グループ毎の作品としてのまとめ

イラストなども添えて、似た種類の意見をまとめ見出しをつける。グループ毎に発表の時間も作る。

制限時間は守る。時間内に出た結論を良い結論とする。



5.　所感

議会報告会の目的は、報告ではなくて議会を身近に感じてもらうことであると聞いて、全くその通りだと感じた。今まで報告に主をおいていたから面白みに欠けた報告会になっていた。前に議員が並び市民と向かい合う従来の「報告会」で何も改革しなければ、今後参加者数は減る一方であると予想される。「対話型報告会」とするための工夫を模索するべき時であろう。

声の大きい市民一人の長い「演説」を避けるためにも、グループでまず対話するのは良い考えであろう。ただし、知らない者同士が「対話」にすぐ入れ

るかはファシリテーターの技量によるであろうし、戸惑う市民は必ずいるであろう。しかし現在の議会報告会に限界を感じた時には、全く斬新なものとして考慮するも良いと思われる。

今までの議会報告会から、希望団体との座談会のような形式にし、グループ、または車座のような座り方で、報告会を根本的に改革することも一考の価値があると思われる。もちろん「議会報告会」という名称も、例えば鳥羽市の「TOBA ミライトーク」のような親しみのあるものに変える必要性を感じる。

以上